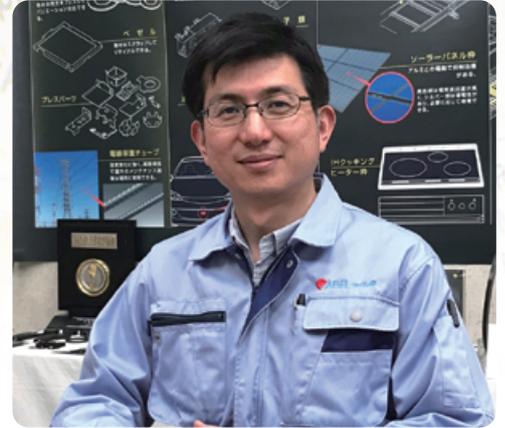


ニッチな分野に特化したオンリーワン技術で 文部科学大臣表彰を受賞！ アベル株式会社

専務取締役 居相 浩介氏

「黒（ブラック）」にこだわったステンレス表面処理加工の分野で、他社の追随を許さないオンリーワンの技術を確立されてきたアベルさん。その強みは、技術力だけではなく、試行錯誤をしながらも確実にニーズを掴み市場を開拓されてきたことです。ビジネスに結び付くまでのストーリーと、その秘訣をじっくりと聞かせていただきました。



自社での技術開発と、選択と集中の結果が大きな幸運を呼び込む

創業当初から行っていたステンレスの電解発色の技術を活かし「アベルブラック」と呼ばれる黒色のステンレスを生み出す技術で、2013年の



「ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞」の受賞に引き続き、今年の文部科学大臣表彰を受賞。そしてさらには社長の居相英機氏も旭日単光章を受章されました。

当初、さまざまな発色の方法を試行錯誤するも、なかなか安定しないので黒色の電解発色に特化した研究をすすめることを決断。その決断が、他社にまねできないほどの高度な技術を作り上げ、結果東京の巨大プロジェクトの施設や有名ブランドブティックなどに壁材などとして採用され、建築業界での需要が増加してきました。

その後、コイル材が光学関連の部品として適しているということでカメラや携帯電話の部品として採用になり、また、高級感のある製品などにも需要が広がってくるようになりました。しかしこうした急速な需要拡大で、自社の生産能力不足と材料調達に問題が生じてきたのです。

日中経済交流会の訪中団がきっかけで素晴らしい出会いに

そんな中、訪中団の団長として中国に行ったことがきっかけで素晴らしい仕入れ先と出会うことになりました。「あまりにも良質だったので、これは日本がすでに負けているかもしれないと感じました」と居相さんは言います。そんな立派な取引

先を見つけることができる日中経済交流会のネットワークは本当に素晴らしいと感じたということです。

今後の展望

現在のアベルさんは、多岐にわたる分野でその技術を評価された結果、大手自動車メーカーからの引き合いをはじめ、海外からの問い合わせも増加してきており、さらなる広がりを見せてきています。

「中小企業である自分たちが取り組んできたことが、国や行政をはじめ日本を代表する大企業からも認められたことは感無量です。今後はさらに技術を高め、海外にも視野を広げて、日本の技術の高さを発信していきたいと思います」と話す居相さん。

最後に居相さんの人柄に触れて【感想】

社長であるお父様の存在が偉大で、子どものころからプレッシャーやコンプレックスがあったという居相さん。しかし同友会でいろいろなタイプの経営者と出会っていくうちに「人それぞれで父と同じやり方でなくてもいいんだ!」と吹っ切れた時、心が軽くなりいろんなことに前向きに取り組めるようになったそうです。

数々の輝かしい賞を受賞されても全く変わらず周囲の方への気配りを持ち続け、とても謙虚な姿勢である居相さんの人間力は素晴らしいと感じました。2019年5月には代表に就任されることが決定されたそうです。まだまだアベルさんと居相さんの魅力を知りたい方は、ぜひ10月にある訪中団（大連）に参加していただければ夜を徹して聞かせていただければと思います。

取材・文 広報委員 合田・広瀬・大山